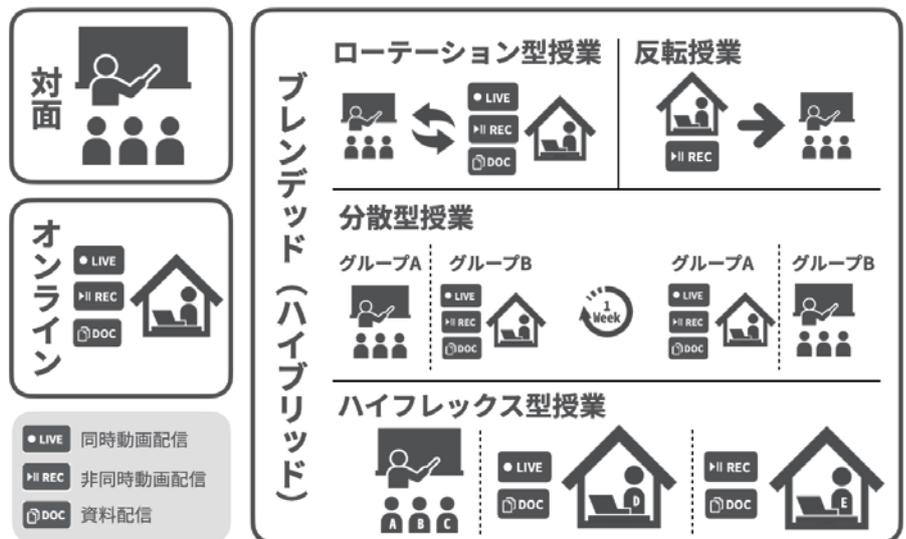


## 「阪大版ブレンデッド教育」を支援します

大阪大学では、ウィズコロナ/コロナ新時代対応の教育改革の目標として、対面授業を主体にしつつ、メディア授業を併用するという「阪大版ブレンデッド教育」を今後の大阪大学標準スタイルにするとして、教育の質向上を目指した活動が推進されています。「ブレンデッド教育」とは、対面 × 同時オンライン、対面 × 非同時オンラインなど、少なくとも一部をオンラインで行う授業形式の総称です。研究者や機関によって定義は異なりますが、ブレンデッド教育には、自宅等で動画を視聴して予習し、教室では様々な活動をする反転授業や、受講生を対面組とオンライン組に分け、1週ごとに入れ替えて授業を行う分散型、そして、学生が、対面、同時オンライン、非同時オンラインを自由に選択することができるハイフレックス型などが含まれます。

ブレンデッド教育は、学生にとっては、①参加することが難しかった授業（キャンパス間移動が必要だった授業など）を受講できる、②学習リソースの選択肢が増える、③時間的・内容的に柔軟に受講できる等の様々なメリットがあります。教員にとっても、①同じ時間・教材で多くの学生に対応できる、②オンラインで教えるスキルと経験が得られる、③都合上対面授業ができない場合の代替手段を提供できる、等のメリットがあります。一方、学生には学習を自己管理するスキルが求められ、教員には、対面、オンライン双方の教材の準備や複雑な機器の操作などの時間や労力がかかります。

### ブレンデッド授業のタイプ



※各授業型の用語は、欧米や日本における一般的な定義をレビューした上で作成しています。組織や研究者によっては、異なる定義がされていることもあります。

ブレンデッド型の授業をどのように実施すればよいかについて、教育学習支援部では、CLEやEchoなど、学内で提供されているサービスも含めて、ブレンデッド授業に役立つツールの活用方法や実際にオンライン授業やブレンデッド授業をされている阪大の先生方の実践例、オンラインでの学習評価のポイント等、様々な情報をウェブサイトに掲載しています（「オンライン教育ガイド」）。また、ブレンデッド授業を実施する際にお困りのことがありましたら、個別のコンサルティングサービスもおこなっています。ぜひ先生方がブレンデッド教育を実践される際にご活用ください。

教育学習支援部 浦田 悠 特任講師



オンライン教育ガイドのウェブページへアクセス

<https://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/project/onlinelecture/top.html>



# 講義自動収録配信システム (Echo360)

大阪大学では、Echo360社の動画収録配信システムが無料で提供されており、2014年からすでに多くの先生にご利用いただいています。このシステムでは、①自身で作成した動画やPDFをEchoにアップロードすることができるコンテンツアップロード、②専用のソフトをPC・Macにインストールし、パソコン画面とウェブカメラなど2画面の収録配信をすることができるUniversal Capture、③専用の機器が設置された教室で毎週の授業を自動収録配信できる教室収録（要申込）の3つの機能が提供されています。②と③は一方のライブ配信にも対応していますので、対面とオンラインを同時に提供するハイフレックス授業等でも活用していただけます。いずれの方法でも、CLEにEchoへのリンクを設置することで、受講生のみが視聴できるようにすることが可能です。Echoに関する詳細な情報や利用マニュアル等は、教育学習支援部のウェブページをご覧ください。



Echo教室での収録配信映像の例

教育学習支援部 浦田 悠 特任講師

Echoの紹介ページ ▶▶▶

<https://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/project/echo.html>



PickUP!

## 教えて先生

全学共通教育部門 金 英子 教授 博士 (理学)

Q

高さの低い容器を用意します。この容器に粘りけのある液体（例えば水飴）を満らし、容器の中に3本の棒を差し込みます (Figure 1(1))。Figure 1(2) は容器を上から見た図です。容器の中に染料を少し入れてから、次の操作 A と操作 B の2つの実験を行います。

**操作 A.** 左にある棒と真ん中にある棒を時計回りに入れ替える (Figure 1(3))。次に真ん中にある棒と右にある棒を時計と反対回りに入れ替える (Figure 1(4))。ここまでが操作 A の一回分です。

**操作 B.** 左にある棒と真ん中にある棒を時計回りに入れ替える (これは操作 A と同じ)。次に真ん中にある棒と右にある棒を時計回りに入れ替える (つまり棒の入れ替えは時計回りのみ)。ここまでが操作 B の一回分です。

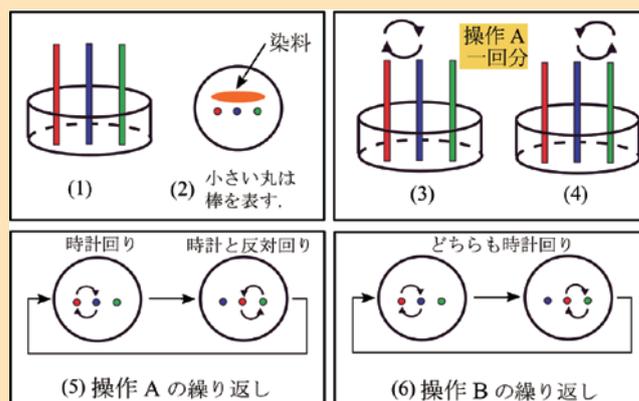


Figure 1. (1) 容器。(2) 容器を上から見た図。(3) と (4) 操作 A の1 回分。(5) 操作 A の繰り返し。(6) 操作 B の繰り返し。

操作 A と操作 B のそれぞれの繰り返しによって染料がどのように混ざるのか観察します (Figure 1(5)(6))。ゆっくりと棒を入れ替えればどのような結果が得られるのでしょうか？次から選んでください。

- 1: 操作 A の方がよく混ざる。
- 2: 操作 B の方がよく混ざる。
- 3: 混ざり方には差はない。

答えと説明はこちらの WEB サイトをご覧ください。▶▶▶

<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/newsletter/online/quiz008/>



## PBL授業のセミナーが行われました



全教横断型教育部門主催の横断教育セミナー「産学共創 PBL 型授業の開発と課題、および今後の展望」を、9月16日にウェビナーで開催しました。

国際公共政策研究科の松繁寿和教授を中心として、企業と共催する4つのPBL型授業について報告と質疑を行いました。パネリストとしてご参加頂いたのは株式会社オカムラ、オムロンヘルスケア株式会社、損害保険ジャパン株式会社、およびパナソニック株式会社の各担当者の皆様です。まず松繁教授から概要の説明があった後、各社担当者からそれぞれの授業内容をご紹介頂きました。各社とも具体的なプロジェクトや経営課題解決などをテーマとして、それぞれの人材育成ノウハウを活用したPBL授業を展開されていました。

丁寧な講評やフィードバック等もあり、いずれも受講した学生の評価は好評であったとのこと。一方、大学と企業の役割分担や、企業側のメリットの見出し方等に課題が残るとの指摘も。学内外から53名の方にご参加頂き、質疑応答を経て盛況のうちに終了しました。



## 京都の高校生が「アカデミック・ライティング」を受講

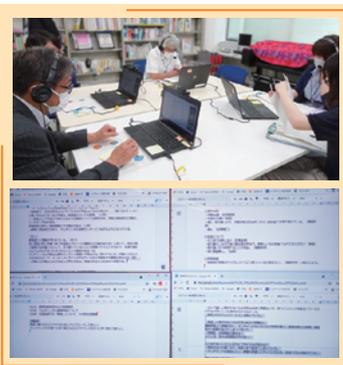
2021年9月11日に、京都府立鳥羽高校で「アカデミック・ライティング」の出張講義が行われました。担当者は全学教育推進機構の堀一成准教授、坂尻彰宏准教授、柿澤寿信准教授、およびTAの学生8名です。

この授業は同校グローバル科の「イノベーション探究Ⅱ」の一環として例年行われており、今年は約80名の2年生が3クラスに分かれて受講しました。授業は「書くために考える：導入～論拠の検証」、「まねてはいけない！レポートの注意点」、「パラグラフ・ライティングしてみよう」の三部構成。その中で、高校生は各自作成した「調査シート」を相互に再検討し、問いと答えを定義してパラグラフとして書き上げる課題に取り組みました。自分自身の「問い」が何なのか、改めて頭を悩ませる生徒も多くいたようです。書き上げたパラグラフはその場でTAが評価し、コメントをつけて返却しました。

また、今回はコロナ感染対策のため生徒のグループワークを制限し、代わりにPadletを活用して議論するなどの新たな試みも行われました。



## 1年生クラス代表懇談会を開催しました



全学教育推進機構では、2021年6月と12月にオンラインでクラス代表懇談会を行いました。大阪大学生協同組合やマルチリンガル教育センターの担当者にもお越しいただき、食堂の営業時間・感染対策についての意見や、マルチリンガル教育科目のe-learningに関する質問にご対応いただきました。

授業に関しては、昨年度に引き続き、課題提出方法を一本化してほしい、CLEのTo Doリストに出る方法にしてほしいという声が多く聞かれました。メディア授業は一方通行になりがちという意見や、オンデマンドからリアルタイムになって教員の印象が良い方向へ変わったという声もありました。双方向コミュニケーションや教員に対する親しみやすさによって、授業に対するモチベーションも変わるようです。

健康状態や交友関係については、運動不足や、友人をつくる難しさ、サークル活動の制限による先輩とのつながりの不足が指摘されました。一方で、「先生がオンライン交流会を開催してくれて盛り上がった」「先生が授業に先輩を呼んでくれた」など、先生方の工夫に感謝する声もありました。また、「1回生は最初に対面で接する機会がないとコミュニケーションが取れない」という声は、来年度の新入生対応に向けて心に留めておくべきものだと考えられます。寄せられた意見は全学教育推進機構のホームページで公開しています。ぜひご覧いただき、学生の現状把握にお役立てください。

詳しくはWEBサイトをご覧ください  
<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/activities/class-mtg/>



# 多言語カフェ、開催しています！



全学教育推進機構では、大阪大学の学生、教職員を対象に多言語カフェを開催しており、留学生チューターとの会話を通して様々な言語に触れることができます。開催日時は授業期間中の平日昼休みで、火木は英語、月水金は中国語、朝鮮語（韓国語）、フランス語、スペイン語、ドイツ語などから1～2言語を日替わりで開催しています。

2020年度以降、多言語カフェも基本的にはオンライン開催に移行しました。しかし、チューターや参加者の希望を受け、2021年10月より期間を限定して対面でのカフェも開催しています。対面の回には、face-to-faceで会話できる数少ない機会を有効活用しようと、後輩たちに声をかけて参加してくれた上回生もいました。一方で、オンライン開催を歓迎する声も、遠方に住む学生などから聞こえています。入学したもののまだ来日できていない留学生が、他の学生とのつながりを保つためにも活用されています。

昨今の情勢では、交流の機会が貴重なものとなっています。言語能力を磨くほか、他の学生と会話するためのご利用も歓迎しています。なかなか他の学生と交流できず不安だという阪大生、孤立感を感じている留学生に、ぜひご紹介ください。



詳細はこちらのWEBサイトをご覧ください。▶▶▶  
<https://www.celas.osaka-u.ac.jp/students/international/cafe/>



## CELAS NEWS

令和3年度 大阪大学賞授賞式で全学教育推進機構の教員が表彰されました。

### <大学運営部門>

「阪大ウェルカムチャンネルを通じたコロナ禍での新入生支援」

佐藤浩章・大山牧子・権藤千恵・中村征樹・北沢美帆

### <教育貢献部門>

「COVID-19対応メディア授業のためのシステム運用と利用者支援の実施」

『COVID-19に関わる新学期授業支援対策チーム』臨時サポートチーム 教員一同



### 『新型コロナウイルスワクチン職域接種 全学教育推進機構ステューデント・コモンズで実施』

キャンパスライフ健康支援センターの医療従事者の統括のもと、医学部附属病院の医師の協力を得て全学教育推進機構ステューデント・コモンズで「COVID-19ワクチン職域接種」が実施されました。接種会場では各部局から動員された職員が会場準備をはじめ、当日の受付、接種希望の学生・教職員の誘導を行いました。猛暑・雨天の続く中、従事して下さった方々にこの場を借りて感謝・御礼申し上げます。



## 編集後記

大叔父となり、40代にして年齢を実感する今日この頃です。(K 澤)

とにかく、「ふつう」でいいんです。(Y パパ)

水あめと絵具をかき混ぜながら実験と理論の壁を感じる今日この頃です。(K 沢)

コロナでゴロゴロしてコロコロ体形になったなぁと自覚する今日この頃です。(伊 T)

